

觀音寺地区

觀音寺地区

観音寺集落は、栗東市の最南端、阿星山のふもとにたたずむ。二十一世帯の集落で、琵琶湖に接しない栗東市にあって、唯一琵琶湖を眺めることができます。地形条件により夏は涼しく、冬には雪が積もり、平野部の滋賀県南地域にはない気候・風土があります。



いつも暖かく迎えてくれるご当主に甘え、昔の子ども部屋や蔵、所など、家屋の隅々まで拝見したり、ご夫婦の御初めやご家族のエピソードなど多くの物語を拝聴しました。時間が経つのを忘れてしまい、いついっしょに帰ってしまったり、話が彼方此方に脱線してしまうなど、そんな調査にお付き合いさせていただきました。私たちはいつの間にか、居心地の良い心にながら、時間やゆっくりと流れる観音寺の間に魅了されていました。そんな調査にご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

観音寺のまちづくりに関わり始めて約10年になる。その頃と変わら
ない風景もあれば、変わりゆく景色も見られた。これからまた10年、
年月の経過を通じて変わりゆくものこそうながされるものが現れるだろ
う。た、だ、い、や地域への記憶が大切に受け継がれることも、この
観音寺を大切に思う新たな住い主が、新しい物語を紡いでいくこ
とで、観音寺固有の魅力が上書きされていくことに期待したい。

善喜、明子夫婦はふたとも後期高齢者となり、驚くべき。夫婦ともとも昭和19年生まれ。観音寺にあるご自宅を訪ねたとき、ご主人の善喜さんにうちでええのがある、まだ住めるのにな、と聞かれた。大抵の暮しや大切な家業、この土地に住み継ぐことができるといふという私のことを、汲んでくれるということが伝わってくる。ご主人の家族ははなはな、観音寺に住み継ぐのに御いづる家がほかにもある、そんな謙虚さ、気遣い、そして地域へ誇らし気を持ちつつご主人の短時間いかにかに詰まっています。

善喜さんは、私たちが訪ねたご自宅で生まれ育った。自分たちがうけてきたこの家がつからぬか、実はよくわかっていない。親父は全然かたくなに



自分の子や孫が家や地域での暮らしを継いでくれることを、もしかしたら心のどこ

この言葉には建物自体の価値への思いも込められている。「今の建築では、こんな大きいもの作らんへんから…うち、ええもんは使ってない。節だらけのものも使ってない家だけではなく地域での暮らしも、「潰れてしまつたら終わり」だ。「ちょっと直したらもうちょっといけると思うねんけど」という善吾さんの声には熱がこもった。



庭にある《割木》

山での暮らしでは、燃料となる薪(割木)が豊富に採れます。山入りして採り割った薪はこうして乾燥・保管し日々使われます。昔は集落の外、草津の料亭などにも卸されて観音寺の経済を支えるのにも役立ちました。

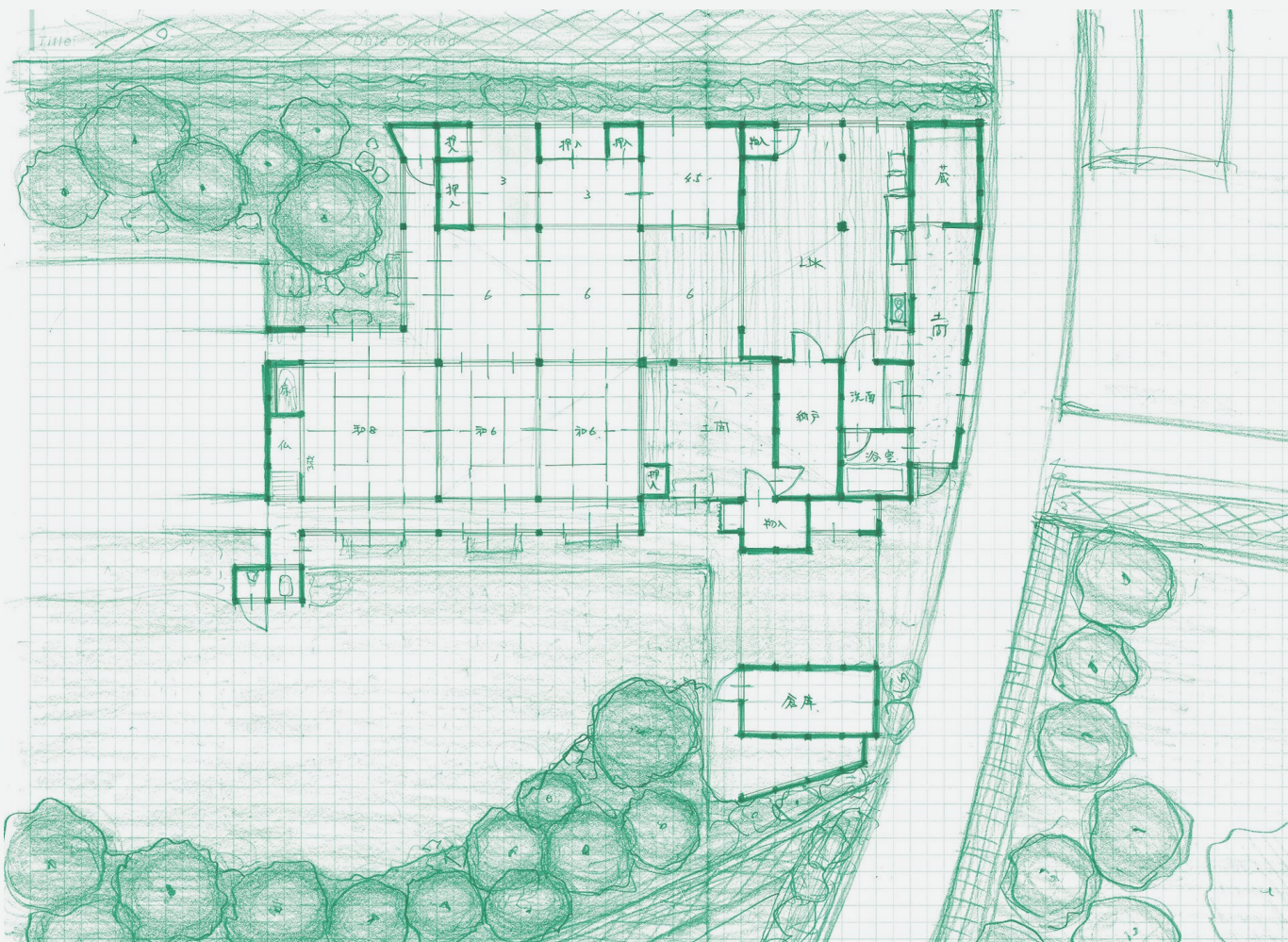
改修はなかつた。
 と思ふ。というように、それほど大きな
 といへ、何も変化がなかつたわけで
 はない。屋根の煙突を取らなかつて、周
 囲をサッシに換えた。それに水回りも
 「ちょっと改修しな」
 台所、トイレ、風呂に上った水回りは
 日々の暮らしそのものな。少し登つたと
 して、お風呂は有る油から、松の枕木の上
 に竹の桶を渡して、家の外に松の大小二
 つの池に水を引いた。そして山間の
 集落らしい、家の中の池に溜めた水は、
 飲んだり、炊事・洗濯に使つたり、風呂
 に運んで使つたりなんでも使つた。「雨
 降つたらなへんですって、真つ赤かつ
 すわい」と、困ることもあつた。
 といへ、風呂を運び、薪をくべて温め
 る。風呂に入るのくひと苦勞だつ

ご夫婦で暮らす、この家にも昔はもつと多くの人が住んでいた。ご夫婦の３人の娘たちだけではなく、一雄・カズ夫婦や、一雄さんのお母さん・コヒデさんも同居していた。

とってたいへん一年だった。カズさんが亡くなった、その百か日が済んだときにコヒデさんが亡くなったのだ。当時は葬儀も自宅で執り行われていたから、地域の人たちが旭邸に集まってくる。こうしたときに昔ながらの家の造りは便利だ。普段は6畳・8畳・8畳と三つに仕切られている部屋も、襖を外すと22畳の大きな部屋になる。親香子に公民館がなかったころは、婦人会の集まりなども誰かの家に集まった。自治会長(区長)

弁当の準備で中心的な役割を担ったりと、きわめて活動的だ。

す3人の子供たちも観音寺で生まれ育った。その子もまた、遊びに行くと、上の娘の車で送り迎えにはいかないと難し。上の娘たちのときには、観音寺にも同級生が多く、「八木寺」の横松を挟み代わり遊びの友だった。観音寺の鐘を鉄球といわれて遊んだことが遊びに来ることであって、そういうとき、地域の車で送り集まるには便利な昔ながらの開けりしは、子どもにとっては必ずしも歓迎されるものではないと言った。また、お仏壇の部屋はいはいはなかったからか、わいすうやうったと繁子さんは振り返る。



白山神社、観音寺(天台宗)
善徳院(浄土宗)といった寺
社があり、神事・仏事も欠かせ
ない。寺の施餓鬼、仏名会、御

番が少し早くなるとしても、最初から多めに当番世帯を決めておくことで結果的に負担を減らせる。

2012年8月12日。旭邸の

美しい眺望、そして旭夫婦や

松本さんが観音寺を再訪でき

観音寺は、約1200年前に
金勝寺とともに開創された寺院として、
現在の阿里山の山頂にあったとされています。

いつの頃からか定かではありませんが、
当初は奈良の興福寺の法相宗の下にあったのが
天台宗に変わり、
湖南地域天台仏教の一寺として
栄えたと文献にあります。

わたしたちは、美しい家屋を住み継ぐための仕組みとして、語りを紡ぐことにより地域文化や地域社会を再発見、再評価する「住まいの記憶史」を紡いでいきます。こうした活動を通じて、百年先の次代へと守るべき地域文化や地域社会をつないでいくことに貢献します。

<https://ritto-akiyabank.jp/>

継いでいきたい
眺めがある。
そこには、
つちの香り
ひとの温度、
ものの記憶
まちの歴史…
しっかりと、
根付いている。

KANONJI
FEBRUARY 2020

©2020 City of Rito All Rights Reserved.
rito-akiyabank.jp